

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの理解と援助		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、こども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	こども理解に基づく保育士の援助や態度について学び実践できるようにする。	
授業担当者	大川美佐子		
実務家教員	○	子育て支援活動と教育カウンセラーの実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「こども理解と相談支援」 著者:稲田達也 他 発行者:豊岡短期大学		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握①	・保育における子ども理解の意義	
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握②	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開・子どもに対する共感的理解と子どもとの関り	
3	子どもを理解する視点①	・子どもの生活や遊び・保育の人的環境としての保育者と子どもの発達・子ども相互の関わりと関係づくり	
4	子どもを理解する視点②	・集団における経験と育ち・葛藤やつまずき・保育の環境の理解と構成・環境の変化や移行	
5	子どもを理解する方法①	・観察・記録・省察・評価	
6	子どもを理解する方法②	・職員間の対話・保護者との情報の共有	
7	子どもの理解に基づく発達援助①	・発達の課題に応じた援助と関わり	
8	子どもの理解に基づく発達援助②	・特別な配慮を要する子どもの理解と援助・発達の連続性と就学への支援	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの保健		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。 また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	小児保健を統計学的視点や母子保健との関連性からも捉え、こどもの各期の発達、成長の特徴を理解する。また、こどもの健康課題や日常保育の中で起こる事象に対して速やかに対応できるように学習する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	こどもが健康に過ごせるように知識を身につける。	
授業担当者	杉浦 美恵子		
実務家教員	○	こども病院にてこどもの医療・保健に携わっていた実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「子どもの保健」中根淳子編著(ななみ書房)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの心身の保健と保健の意義	生命保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的について学ぶ	
2	健康の概念と健康指標	健康の概念・子どもの健康指標について学ぶ	
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	子どもの貧困・医療的ケア児・地域における保健活動と子ども虐待防止について学ぶ	
4	身体的発育及び運動機能の発達と保健	乳幼児期の身体発育の概要について学ぶ	
5	生理機能の発達と保健①	呼吸機能・循環機能・免疫機能・消化機能・尿排泄機能の発達について学ぶ	
6	生理機能の発達と保健②	感覚機能の発達について学ぶ	
7	発達に即応した基本的生活習慣の形成	睡眠・食・排泄・清潔習慣について学ぶ	
8	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察について学ぶ	
9	発育・発達の把握と健康診断①	身体発育の評価について学ぶ	
10	発育・発達の把握と健康診断②	保護者との情報共有について学ぶ	
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応①	保育の現場でよくある疾患 感染症と予防接種について学ぶ	
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応②	保育の現場でよくある疾患 先天異常・アレルギー疾患・消化器疾患について学ぶ	
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応③	保育の現場でよくある疾患 呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・神経系疾患について学ぶ	
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応④	保育の現場でよくある疾患 皮膚の疾患・目の疾患・耳の疾患について学ぶ	
15	健康および安全の実施体制	職員間の連携と組織定取り組み・主な母子保健対策と保育について学ぶ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの食と栄養		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	生涯にわたる健康と生活の基礎が形成される乳幼児の食生活は、その後の健康に影響を及ぼす。そのため、健康な生活の基本となる食生活の意義や栄養に関する知識を学び、家庭や児童福祉施設における食事と栄養について学び、特別な配慮を要するこどもの食栄養について理解する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、テキストや参考図書だけでなく、演習や調理実習を通して、より広い視点からこどもの食と栄養について理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	・食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・こどもの健全な発育発達にあわせた食生活と健康と食生活の関連を理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえた、保育における食育の意義・目的・考え方とその内容について理解する。 ・こどもの食生活の現状と課題や、特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。	
授業担当者	伊藤 知圭子		
実務家教員	○	医療機関が設置する保育施設において、献立作成、調理、栄養管理、衛生管理等に従事した実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	・「子どもの食と栄養」久保田絹江著 ・「保育所保育指針」 ・「幼稚園教育要領」 ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」 ・「保育所における食事の提供ガイドライン」		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活を学び、食生活の現状と課題を考える。	
2	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念と栄養素、食事摂取基準と調理の基本を学び、献立を考える。(食事バランスガイド)	
3	乳児期の発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期の心身の発達と食生活について学ぶ。	
4	幼児期・学童期の食生活	幼児期・学童期の心身の発達と食生活について学ぶ。	
5	調理実習 (乳幼児食)	調理実習を通して、乳幼児の食事について理解する。	
6			
7	食育の基本	食育の意義・目的、計画の作成・評価、環境について学ぶ。	
8	食育の内容	保護者や地域の関係者等との連携した食育の取組について学び、理解を深める。	
9	調理実習 (行事食)	調理実習を通して、環境としての食事について理解する。	
10			
11	家庭や入所施設の食事と栄養	家庭における食生活の現状と課題を学び、保育所給食の役割について考える。 入所施設の食事と栄養について考える。	
12	特別な配慮を要するこどもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障害のある子どもへの対応について学ぶ。	
13	調理実習 (代替食)	調理実習を通して、個別化対応の食事について理解する。	
14			
15	まとめ	食への理解を深め、「楽しく食べるこどもに」の実践を考える。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教育課程論		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	幼児・子どもを育てるうえで、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、などを学ぶ。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷について理解できる。 2.教育課程・保育課程編成の留意点について説明できる。 3.編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像をとらえ理解できる。 4.保護者や関係機関との連携について理解できる。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「教育課程論」(記本テキスト) ・「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	教育課程・保育課程編成の基本的な考え方	教育課程、保育課程とは・カリキュラムの概念を学ぶ	
2	カリキュラムの基礎理論	保育カリキュラムの基本的性格・保育の場と保育カリキュラムについて学ぶ	
3	日本における教育課程・保育課程の変遷	保育カリキュラムの構成要素・発達観、子ども観、教育観、保育観について学ぶ	
4	時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方	学習指導要領	
5	教育課程・全体的な計画に関わる法規の理解	幼稚園・保育園・認定こども園の関係法規および行政の仕組みについて学ぶ	
6	学習指導要領の変遷とその特色の	学習指導要領の構成・改定に至る経緯・改定の基本的な方針について学ぶ	
7	園における長期・短期の指導計画	指導計画とは・指導計画作成の基本姿勢・指導計画の実践について学ぶ	
8	教育課程・保育課程編成の実践	保育における評価・園の自己評価の在り方・教育課程、保育課程の改善について学ぶ	
9	保育の基本と実践	記録及び省察による教育・保育の質向上	
10	学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム	連携の推進の水準位相・教育機関相互における連携類型について学ぶ	
11	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史	保育の歴史的変遷について学ぶ	
12	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性	子どもの命を守る安心。安全の生活環境・学校園内の危機管理と指導について学ぶ	
13	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の変遷について学ぶ	
14	教育課程をめぐる諸問題	山積みするカリキュラムの課題について学ぶ	
15	信頼される園づくりと地域子育て支援	園の外部との関係づくりや、新たな園の役割について学ぶ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育内容総論		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、乳幼児の理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを理解する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にし、課題を克服する。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「保育内容総論」戸江 茂博 著		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育の全体的構造	育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について学ぶ	
2	保育内容の歴史的変遷	変遷にみる特徴・変遷にみる課題について学ぶ	
3	レポート課題	主体的な活動を促す保育者の役割を事例をあげながらレポート作成 育みたい資質・能力、非認知能力についてレポート作成	
4	レポート課題		
5	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	環境を通して行う保育・遊びによる総合的な保育について学ぶ	
6	全体的な計画の作成と指導計画の作成	全体的な計画の作成・指導計画の作成手順と配慮	
7	保育の評価と保育の記録	幼児理解に基づく評価・観察記録を書く意味と幼児理解	
8	保育内容の現代的課題について	子育て支援・多文化共生保育	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと健康		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもの健康を守るための保育者の援助方法、関わり方について学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育面で子どもの発達をどのようにとらえ、どのような内容について、どのように指導し援助することが効果的かについて学習する。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	幼児の発達・学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設・保育所での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」高内正子編著 教育情報出版		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	領域「健康」について	変化する子どもの育ち・領域「健康」について学ぶ	
2	世界保健機構にについて	健康の定義(WHO)が示す「健康」とは何か考える	
3	健康の問題点	現代の子どもの健康の問題点について考える	
4	保育者の役割	子どもの健康を守るための保育者の役割/子どもを取り巻く親の問題	
5	行事と健康について①	日本の伝統的民俗行事と健康について	
6	行事と健康について②	保育行事と子どもの健康な育ちについて	
7	子どもといのちの教育①	現代のいのちをめぐる問題点	
8	子どもといのちの教育②	子どもに知らせるいのちの大切さ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと環境		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、子どもの発達における環境の意義や役割について学ぶ。 子ども達によりよい物的環境、人的環境を提供できる素地を培う。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・「環境」という言葉をキーワードに、様々な視点から保育者として必要な基礎知識を学ぶ。 ・「体験する」「調べる」「考える」ことを通して、対象となる素材や遊びを学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	保育内容の「環境」のねらいと内容を理解する。こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設・保育所での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	・「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説書」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 ・体験する、調べる、考える 領域「環境」 田宮緑 著者 萌文書林 ・適宜、資料を配布する		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「環境」とは	環境という言葉、環境の定義・環境を通して行う保育の意味について学ぶ	
2	領域「環境」の位置付け	ねらいと内容・指導上の留意点と指導計画・評価の考え方について学ぶ	
3	季節感を味わい、自然をよく知る	身近な植物・食べ物について知り保育に取り入れる方法や、季節を感じられる保育について考える	
4	身のまわりの物に愛着をもつ	身の回りにある物を使って何が作れるかを考え、実践する	
5	生命の営みにふれる	生きているものを取り入れた保育について考える	
6	数量・図形に親しむ、科学を体験する	標識、文字との出会い・数量と図形、ものの性質との出会いについて学ぶ	
7	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題	指導案作成における3間(時間・空間・仲間)の重要性 小学校との連携理解について学ぶ	
8	まとめ	授業を振り返り、学習の定着を図る	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと造形表現		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに、材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形遊び」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	乳幼児の感性、興味を見出し、豊かで安定した子どもを育てる指導者としての自覚を持ち、具体的かつ効果的な指導法を身につける。	
授業担当者	鈴木香理		
実務家教員	○	こども園保育士として子どもの造形指導の経験あり	
使用テキスト 参考文献	必要な際は、教員が随時資料配布		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「表現」のねらいと内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域および小学校との連携について	
2	乳幼児の表現活動の大切さについて	乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴の理解	
3	指導・援助・評価について	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価について	
4	教材研究を伴う製作①	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「えがく」について	
5	教材研究を伴う製作②	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「つくる」について	
6	教材研究を伴う製作③	発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。「造形あそび」について	
7	造形表現活動の展開と援助①	えがく・つくる・造形あそびについての実践的な指導法(模擬保育)の学習	
8	造形表現活動の展開と援助②	情報機器及び教材の活用について	

シラバスデータ		2026/4/1
科目名	こどもと造形	
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。
学年	2年	
コース	－	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)	
取得単位数	1単位	1. 乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基本的な知識及び技能について理解ができる。 2. えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の制作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3. 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。
授業担当者	鈴木香理	
実務家教員	○	こども園の保育士として、子どもの造形指導の経験あり
使用テキスト 参考文献	・「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説書」	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	幼児造形教育の重要性和研究の視点	領域「表現」のねらいと内容・幼児期の造形あそびの重要性について学ぶ
2	幼児造形の特徴・領域・道筋について	幼児期の造形の特徴・造形遊びの発達の道筋について学ぶ
3	えがく領域に伴う製作Ⅰ	えがく活動における指導と援助について実際に行いながら学ぶ
4	つくる領域に伴う製作Ⅱ	つくる活動における指導と援助について実際に行いながら学ぶ
5	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ	造形遊びにおける指導と援助について実際に行いながら学ぶ
6	作品の研究及び発表	製作Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで作成した作品を発表し、アドバイスなどを話し合う
7	発達別の造形教育	発達や歳児により異なる教材・支援について学ぶ
8	保育展開について	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)とまとめ

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	表現とこどもの運動		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	子どもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し、身に着ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して子ども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	こどもの表現遊びを年齢に応じた発育発達 の面から理解し、遊びの実践例から具体的なイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識および実践力を理論的に深める。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	表現活動に、以下の内容が関係することを理解する。 ①日常における子どもの生活環境の変化②5領域との関連性③援助の在り方④安全性	
授業担当者	鈴木香理		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	社会的背景を考慮した遊び	地域社会、社会環境の変化について・遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 身体、形態、機能、こころの発育発達・こどもの運動能力と運動技能の発達	
2	発達と運動	発育発達 子どもと運動	
3	基本的な動き	基本運動・運動の機能 年齢発達における遊び・グループ遊び	
4	運動の役割と効果	体づくり運動や音・色などの刺激に対応する運動について	
5	子どもと表現運動①	野外遊び・サーキットあそびの実際 大型遊具・操作性遊具をもとにしたあそびについて	
6	子どもと表現運動②	活動的な伝承遊び・身近な素材活用遊びの実際と実践	
7	援助者の役割	「動くことを学ぶ」、「動きを通して表現する」の両方を統合的に援助する関りについて	
8	遊びの安全管理	安全の考え方、物的管理、人的管理・援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	障害児保育		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	障害児その他の特別な配慮が必要な子どもの現状や特性、心身の発達等を学び、これに応じた援助や配慮について理解する。また、障害児その他の特別な配慮が必要な子どもの家庭への支援や関係機関等との連携について理解する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	1. 障害児保育を支える理念について 2. 障害児等の理解と保育における発達の援助及び保育の実際 3. 家庭支援や関係機関との連携について	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	障がい児に対する先入観を払い、障がい児の生活を丁寧に捉え、支援するための基礎知識を身に付ける。	
授業担当者	後藤 明子		
実務家教員	○	障害者施設にて生活支援の経験 ショートステイ事業にて児童の受入あり	
使用テキスト 参考文献	「キーワードで学ぶ 障害児保育入門」 七木田敦編著(保育出版社)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	障害児保育を支える理念や概念	障害児保育とは何か 映画を通じて考える①	
2		障害児保育とは何か 映画を通じて考える②	
3		ノーマライゼーション インクルージョン 合理的配慮	
4	発達と障害	心身の発達と障害	
5		障害の早期発見と早期対応	
6		発達障害の理解と支援	
7	障害の理解と保育支援の実際	知的障害	
8		自閉症スペクトラム障害	
9		ADHD LD その他の情緒障害	
10		視覚・聴覚障害	
11		運動障害・病虚弱の子ども	
12		指導計画および個別の支援計画について	
13	家庭および自治体・関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	
14	インクルーシブ保育	インクルーシブなクラス経営 子どもとつながる 子ども同士がつながる保育①	
15		インクルーシブなクラス経営 子どもとつながる 子ども同士がつながる保育② まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	社会的養護Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	社会的養護の実際を事例を通して理解し、養護に必要な知識・技術の基本を習得する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	社計的養護を必要としている子どもたちとその家族を適切に支援できるように、援助者としての姿勢、支援計画の立て方、具体的な支援の進め方、社会的資源の活用の仕方などを事例を通して学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	社会的養護の対象の子どもやその家族を理解し、保育士としてその困難を共に支えるために必要な考え方や姿勢、活用できる技術、価値観を身に付ける。	
授業担当者	山本佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	随時資料配布		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	授業ガイダンス／社会的養護における子どもの理解	
2	子どもと家庭の現状	子育て家庭の現状と社会的養護について学ぶ/事例1	
3	子ども虐待の現状	子ども虐待の現状と家庭の生活について学ぶ/事例2	
4	社会的養護の重要性①	傷ついた子どもの増加について学ぶ/事例3	
5	社会的養護の重要性②	障害のある子どもの増加について学ぶ/事例4	
6	児童福祉施設の役割	児童福祉施設の果たす役割の増大について	
7	社会的養護と地域福祉①	福祉施策の方向性と地域福祉について	
8	社会的養護と地域福祉②	発表　／まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自ら学んだ保育の知識、技術を基礎として、それらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・保育実習Ⅰ 本実習10日間40時間以上を実施する。 ・部分実習・・・1回(手遊び・絵本の読み聞かせ) ・部分実習:1回実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:事前指導として予習課題を出します。実習先についてまとめたリインターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習:事前に配布する実習記録を用いて、その日の実習内容を整理して記述してください。		
取得単位数	2単位	・保育所の機能と保育士の職務について理解する。 ・保育士の乳幼児に対する援助方法を知り、実践する。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	保育実習（保育所）	<ねらい> ・保育所の生活に実際に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、各施設の機能と保育士の職務に ついて学ぶ。 ・観察・参加実習10日間、うち部分実習（手遊び・絵本の読み聞かせ）1日程度実施	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習Ⅰ（施設）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	施設実習及び10日間以上、且つ80時間以上を実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:事前指導として予習課題を出します。実習先についてまとめたインターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習:事前に配布する実習記録を用いて、その日の実習内容を整理して記述してください。		
取得単位数	2単位	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、各施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	<目標> ・施設の役割や機能、保育士の職務について学ぶ。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ・施設における保育士の援助方法を知り、実践する。 <本学の定める施設の種類> ・養護系 ／ 乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設 ・障害系 ／ 福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、福祉型児童発達支援センター 医療型児童発達支援センター、障害者支援施設 障害福祉サービス事業所(生活介護・自立訓練・就労支援)	

シラバスデータ			2026/4/
科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育所実習にあたり、その知識と心構えを学習する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）		
取得単位数	1単位	保育所保育の意義を知り、乳幼児期の特性を理解し、実習に生かせる知識・技術を身につける。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「成長し続ける教育・保育実習」 浦田雅夫編著 教育情報出版		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育実技①	手遊び・歌遊び・絵本の読み聞かせ・パネルシアターのついて実践を通して学ぶ	
2	保育実技②	手遊び・歌遊び・絵本の読み聞かせ・パネルシアターのついて実践を通して学ぶ	
3	事例からエピソードを書く①	職場体験中にあった対応に困ってしまったエピソードを書き、グループワークを行う	
4	自宅学習 指導案作成	部分実習で行う主活動を企画し、指導案を作成する	
5	事例からエピソードを書く③	職場体験中にあった気になる子のエピソードを書き、対応についてグループワークを行う	
6	部分実習について①	指導案の書き方のポイントについて学ぶ	
7	部分実習について②	どのような活動があるのか	
8	実習準備	日誌の確認・出勤時間、持ち物等の確認・指導案の準備を行う	
9	実習日誌の書き方①	環境構成の見やすい書き方について学ぶ	
10	実習日誌の書き方②	実習の振り返りで課題となった部分について学び直す	
11	実習日誌の書き方③	子どもの活動についてどのようなことを具体的に書くのか、事例を通して学ぶ	
12	実習日誌について	課題の立て方・反省、考察の書き方について学ぶ	
13	実習前総括、壮行会	実習に向けての確認・巡回教員との打合せを行う	
14	実習振り返り、実習事後レポート	事後レポート作成・今後の実習についての確認を行う	
15	指導計画の作成について	行いたい部分実習について指導案を作成する・作成した指導案の足りない部分を確認し、作成し直す	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設実習に向けて、施設ごとの概要や施設実習の基本、施設保育士の職務について理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	実習先の状況についてDVDを活用し知る。その後、各自参加する実習先について詳細を調べ、実習目標の設定、記録の書き方等を学ぶ。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）		
取得単位数	4単位	各施設の機能や役割について実習を通して学び、事後指導として施設保育士の役割や倫理観について振り返り自分なりの保育観を持つことを目指す。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	「考え、実践する 施設実習」 浦田 雅夫 編著 保育出版社		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	施設実習とは	施設実習の意義と目的、実習の概要を学ぶ	
2	施設を知る	児童福祉施設の種類と機能及び施設の子ども(利用者)を知る	
3	施設保育士の役割について	施設保育士の役割と職業倫理、実習までに見につけておくことは何かを学ぶ	
4	実習に臨むにあたっての心構え	実習に取り組む姿勢について学ぶ／実習要綱の確認	
5	実習書類作成	個人票・誓約書を作成する。	
6	児童福祉施設の実際を学ぶ①	『乳児院』について：DVDを見てワークシートを記入する	
7	児童福祉施設の実際を学ぶ②	『児童養護施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
8	児童福祉施設の実際を学ぶ③	『母子生活支援施設』について：VTRを見てワークシートを記入する	
9	児童福祉施設の実際を学ぶ④	『知的障害児施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
10	児童福祉施設の実際を学ぶ⑤	『肢体不自由児施設』について：DVDを見てワークシートを記入する	
11	児童福祉施設の実際を学ぶ⑥	『医療型障害児施設(重症心身障害児施設)』について：DVDを見てワークシートを記入する	
12	児童福祉施設の実際を学ぶ⑦	『児童発達支援センター』について：VTRを見てワークシートを記入する	
13	障害者支援の実際を学ぶ	障害者支援施設、障害福祉サービス事業所について学ぶ	
14	実習先についての事前学習①	実習施設について、実習先の資料等を活用しワークシートを記入する	
15	実習先についての事前学習②	実習施設の分野ごとに分かれ、情報を共有する	
16	オリエンテーションについて	事前オリエンテーションにおける留意点の確認及び報告書の書き方を学ぶ	
17	実習計画①	施設実習の目的を明確にする	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
18	実習計画②	実習目標を立て、目標を達成するための手立てを考える
19	実習日誌について	実習日誌を書く意義及び書き方を学ぶ
20	指導案について①	施設実習における部分実習のあり方及び指導案の書き方を学ぶ
21	指導案について②	児童発達支援センターに合わせた指導案を作成する
22	事前準備①	自己紹介、保育教材等を製作する／実習先に応じた事前学習を行う
23	事前準備②	自己紹介、保育教材等を製作する／実習先に応じた事前学習を行う
24	事前準備③	事前学習の成果発表会
25	実習要綱の確認	実習中の心構えとマナー及び職員との関わりについて学ぶ
26	書類の取り扱いについて	実習中の書類の取り扱いと守秘義務について及び礼状の書き方を学ぶ
27	書類の確認	実習日誌、その他の必要書類を配布し確認する
28	激励会	実習巡回教員との打ち合わせを行う
29	実習事後の確認	お礼状・事後レポート作成
30	実習報告会	実習発表を行う

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教職論		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職(保育)は、こどもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、こどもに関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主なテーマとし、自分が目指す教職者像の確立を図る。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	1.時代の変化に応じた教員・保育士の在り方について理解する。 2.求められる教員・保育士の専門性について理解する。 3.教員・保育士を目指す者としての意欲・態度・自覚を高める。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「教職論」(豊岡短期大学配本テキスト) ・「幼稚園教育要領」 ・「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	教職(保育)とは何か	教職(保育)の意義、定義・教職(保育)者とは何かについて学ぶ	
2	教職(保育)者に求められる資質と能力	法律、制度が求める資質能力・保育者の資質、能力について学ぶ	
3	教員(保育士)養成の歴史	黎明期の保育と保育者・幼稚園の改革と保育者・保育所の誕生と保育者について学ぶ	
4	教職(保育)者の資質と役割	教育(保育)現場を取り巻く環境の変化・保育士に求められる資質と能力・幼稚園教諭に求められる資質と能力について学ぶ	
5	指導計画	教職(保育)にのっての指導計画の意義や、計画における留意点について学ぶ	
6	教職(保育)者の仕事・義務・研修	教員の仕事・教員の義務について学ぶ	
7	教職(保育)者の職場環境	保育者の勤務実態・保育者の職場環境作りについて学ぶ	
8	教職(保育)者の制度的位置づけ	関係法規に基づく、教職(保育)者の位置づけについて学ぶ	
9	教職(保育)者の任用と服務	法律に見る教育の身分と職務・教員の資格と免許・幼稚園教諭、保育士の制度的位置づけについて	
10	教育(保育)現場における子どもとの関わり(あそび・環境)	主体的な遊び、学び・環境による保育・子どもの遊びから学ぶ理解と援助について学ぶ	
11	家庭との連携・支援、地域との関わり	家庭との連携・保護者への対応の基本姿勢、地域との関りの意義について学ぶ	
12	保育者の役割	教職観の変遷や、現代社会における教員(保育者)の役割について学ぶ	
13	園内外との連携	職員間の連携・保育園・幼稚園・小学校との連携(接続カリキュラム)について学ぶ	
14	今日的な教育課題に対応するために	「チーム学校」の考え方や、発達障害の子どもをどう理解するかについて学ぶ	
15	総括(まとめ)	よい教職者(保育者)になるために自分に必要なことについて考えを深める。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	特別支援教育		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	特別な教育的ニーズのある子どもを含めた全ての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	特別な教育的にニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	特別な教育的ニーズのある子どもとは、具体的にどのような子どもか理解すること。 個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解すること。	
授業担当者	後藤 明子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	野口和也 他『特別支援教育』 発行者 豊岡短期大学		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	特別支援教育とは	授業ガイダンス レポート課題 試験課題の確認 レポート作成指導	
2	レポート作成	「外国につながるのあるこどもとその家庭の支援について」	
3	レポート作成	「外国につながるのあるこどもとその家庭の支援について」	
4	試験対策	肢体不自由について 特別支援教育コーディネーターについて 特別支援教育の根拠法 合理的配慮について	
5	試験対策	視覚障害について 特別支援教育コーディネーターについて 貧困の子どもに対する対策について	
6	試験対策	聴覚障害について 特別支援教育コーディネーターについて 特別支援教育推進の根拠法について	
7	支援計画について	園・施設・学校等で作成される支援計画について	
8	試験対策及び 試験	試験に向けてのまとめ 試験	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの理解と相談支援		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生ずるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	・幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。 ・カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	「こどもの理解と相談支援」 稲田辰彦・大塚貴之・原田敬之・鈴木由美・原田増廣・室谷雅美 著		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	こどもの実態に応じた発達や学びの把握	こども理解の意義、養護と教育の一体的展開、幼児理解を深める教師に必要な資質・力量について学ぶ	
2	相談支援の基本	相談支援の基本、カウンセリングの基本(意義・理論)とカウンセリングの基本的な方法について学ぶ	
3	こどもを理解する視点	こどもの生活環境の広がり、保育の人的環境、こども相互の関わりについて学ぶ	
4	自宅学習 レポート課題	教育相談とは何か。また、保護者と連携し、保護者に対する支援を行う上で、保育者としてどのようなことに気を付けながら進めていくべきかについてまとめる。	
5	こどもを理解する方法①	知能検査、発達検査、行動観察法について学ぶ	
6	こどもを理解する方法②	保育の評価の必要性、観察・記録・省察・評価について学ぶ	
7	こどもを理解する方法③	職員間の情報共有、保護者との情報共有について学ぶ	
8	こどもの自己理解を進める技法	こどもの自己表現と自己理解の発達について学ぶ	
9	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド	実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを学ぶ	
10	幼稚園・保育園における園児への心理的援助	保育カウンセリングの意義、保育カウンセリングにおける基本的な心構えについて学ぶ	
11	小学校における児童への心理的援助	カウンセリングの3つの様態、カウンセリングのプロセスについて学ぶ	
12	相談支援の実際①	発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたちについて学ぶ	
13	相談支援の実際②	不登園・不登校、いじめ、虐待、非行と小・中学生の心理アセスメントについて学ぶ	
14	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援	保・幼・小の連携、親との連携について学ぶ	
15	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援	保・幼・小の連携、親との連携について学ぶ	
16	まとめ	試験	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	教材研究Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	教育方法の定義・意義・守備範囲など大きな概念について基礎知識を習得し、さらに教育の目標・教育的内容・評価との関係性について理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	教育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な教授方法や活用方法についての理解を深め、保育者として必要な資質を養う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位	1.教育方法の変遷について理解できる。 2.教育メディア、教材・教具について理解できる。 3.幼児教育の方法と、小学校の接続について理解できる。 4.教育方法の課題と、今後の展望について自分の考えを持てる。	
授業担当者	鈴木香理		
実務家教員	○	こども園保育士としてこどもの造形指導の経験あり	
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	指導計画と教材の関係について	
2	季節に合わせた環境構成	後期10月～11月	
3	季節に合わせた環境構成	後期12月～1月	
4	教材研究の実際	シアター製作「スケッチブックシアター」立案	
5	教材研究の実際	シアター製作「スケッチブックシアター」製作①	
6	教材研究の実際	シアター製作「スケッチブックシアター」製作②	
7	教材研究の実際	シアター製作「スケッチブックシアター」実演	
8	教材研究の実際	シアター製作「手袋シアター」作案	
9	教材研究の実際	シアター製作「手袋シアター」製作①	
10	教材研究の実際	シアター製作「手袋シアター」製作②	
11	教材研究の実際	シアター製作「手袋シアター」実演	
12	季節に合わせた環境構成	後期2月～3月	
13	教材研究の実際	乳児向け「手作り玩具」 作案・制作	
14	教材研究の実際	乳児向け「手作り玩具」 制作	
15	教材研究の実際	乳児向け「手作り玩具」完成・実演発表／まとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと体育		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	復習：毎回授業の中で配布する振り返りシートを記入し、その日の授業の内容を整理して記述してください。(各回2時間程度を想定)		
取得単位数	1単位	子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび(野外でのグループ・集団遊び・固定遊具遊び・大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び等)が考えら指導でき、運動遊びの指導法や安全について知識を習得する。	
授業担当者	大橋美穂子		
実務家教員	○	幼児・児童向けの体操教室主催	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	幼児の運動遊びについて(講義)	
2	遊具を使った遊び①	固定遊具の安全点検と遊び	
3	遊具を使った遊び②	様々なボールを使った遊び	
4	遊具を使った遊び③	身近な遊具での遊び	
5	運動調整力について	敏捷性・巧緻性・協応性・柔軟性・平衡性について	
6	サーキットあそび	サーキットあそび	
7	大型遊具を使った遊び	マット・平均台・跳び箱など	
8	伝承遊び	遊具を使う伝承遊び 遊具を使わない伝承遊び	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	ピアノ技術Ⅰ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・保育の現場で役立つ技術や表現力の獲得を目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の現場に必要な基本的なピアノ奏法の取得を目指して、幼児歌曲などの弾き歌いをを用いて学ぶ。それぞれのレベルが異なるため、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:毎回授業の中で、進捗状況を確認。各自の課題曲を練習をする。 復習:毎回次回までの課題曲を提示する。授業までに弾けるように練習する。		
取得単位数	2単位	バイエル2曲(75番・96番)・コールユブングエン2曲(37番・41番)・弾き歌い曲(どんぐりころころ・バスごっこ・とんぼのめがね)を演奏できるようにする。	
授業担当者	伊藤 知圭子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・豊岡短期大学指定テキスト ・こどものうた200 小林美美著 実用こどものうた 田口雅夫・高崎和子共編		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	豊岡短期大学課題曲の提示	
2	ピアノ実技／弾き歌い実践	各自、課題曲の練習および担当教員との個別指導を行う。 生活の歌、季節の歌等のレパートリーを増やす。 (期末試験にて、クラス内での発表会を行う)	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習Ⅱ（保育所）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自ら学んだ保育の知識、技術を基礎として、それらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・保育実習Ⅱ本実習10日間40時間以上を実施する。 ・部分実習・・・1回（設定保育）以上実施	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：事前指導として予習課題を出します。実習先についてまとめたリインターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習：事前に配布する実習記録を用いて、その日の実習内容を整理して記述してください。		
取得単位数	2単位	・今までの実習を踏まえ、乳幼児への理解を深める。 ・保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 ・保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	保育実習（保育所）	＜ねらい＞ ・今までの実習を踏まえ、乳幼児への理解を深める。 ・保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。 ・観察・参加実習10日間、うち部分実習（設定保育）1日程度	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習Ⅲ(施設)		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、施設において保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し探求していく	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	施設実習10日間以上、且つ80時間以上を実施する。	
授業回数	80時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:事前指導として予習課題を出します。実習先についてまとめたインターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習:事前に配布する実習記録を用いて、その日の実習内容を整理して記述してください。		
取得単位数	2単位	施設利用者の特性とその養護について理解するとともに、利用者個別のニーズにあった養護の重要性について理解する。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
	今までの実習を踏まえ、施設において保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し探求していく	<目標> ・社会福祉施設の機能と役割を理解する ・施設における保育士の役割と他職種の理解・連携のあり方を習得する ・施設利用者の特性とその養護について理解するとともに、利用者個別のニーズにあった養護の重要性について理解する <本学の定める施設の種類> ・養護系 ／ 乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、 ・障害系 ／ 福祉型障害児入所施設 医療型障害児入所施設 福祉型児童発達支援センター 医療型児童発達支援センター 障害者支援施設 障害福祉サービス事業所(生活介護・自立訓練・就労支援)	

科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所）	
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	今までの実習を踏まえ、乳幼児の理解を深める。
学年	2年	
コース	－	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを理解する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）	
取得単位数	1単位	保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にし、課題を克服する。
授業担当者	杉山 有美	
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する
使用テキスト 参考文献	・「保育所実習」安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 編（ミネルヴァ書房）	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス（保育実習Ⅲ概要）	保育実習Ⅲについてのねらいを学ぶ・今後の課題を明確にする
2	保育技術（絵本・紙芝居）	絵本・紙芝居の読み聞かせをグループ毎で行い、お互いにアドバイスをする
3	保育技術（手あそび・リズムあそび）	手遊びの一覧を作成・簡単なリズム遊びの実践を行う
4	保育技術（ルールのある遊び）	ルールを守る大切さ・ルールの子どもへの伝え方・実際に遊び楽しさを感じる
5	保育技術（製作あそび）	作って遊べる製作あそびを行い、事前準備や援助方法などを考える
6	生活面での援助方法（食事・着脱）	年齢別の発達について・子どもがやってみたくなる援助方法について考える
7	生活面での援助方法（排泄・睡眠）	年齢別の発達について・年齢ごとに合った援助方法について考える
8	実習課題作成	保育実習Ⅰ、職場体験から感じた課題を見直す・実習テーマを作成する
9	指導案作成	製作遊びのテーマを決めて試作を作り、指導案を作成する
10	指導案作成	集団遊びでのテーマを決め、指導案を作成する
11	実習準備	日誌の書き方の確認・関係書類の確認を行う
12	実習準備	実習日誌の確認・提出する書類の確認を行う
13	実習前総括、壮行会（巡回教員との打合せ）	実習期間中の注意事項の確認・巡回教員との打合せを行う
14	実習振り返り	事後レポート・エピソード記述を作成する
15	実習振り返り	・全員の実習中のエピソード記述を発表し、感想を伝え合う ・教育実習に向けて自己の課題を明確にし、達成するための手段を考える

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	保育実習指導Ⅱ（施設）		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	施設における保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、家庭と地域の生活状況を把握し、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	○児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について ○施設における支援の実践について ○保育士の多様な業務と職業倫理について ○保育士としての自己課題の明確化について	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）		
取得単位数	1単位	各施設の機能や役割について実習を通して学び、事後指導として施設保育士の役割や倫理観について振り返り自分なりの保育観を持つことを目指す。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	○	保育士として児童養護施設での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	・「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」加藤洋子／一瀬早百合／飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房 ・その他、随時、教員による資料を配布		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	児童福祉施設の実践について学ぶとは	
2	児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について①	各施設の概要を学ぶ	
3	児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について②	各施設の役割と機能を学ぶ	
4	施設における支援の実践①	子どもたちを受容し、共感するとは	
5	施設における支援の実践②	個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解	
6	施設における支援の実践③	個別支援計画の作成と実践	
7	施設における支援の実践④	子ども(利用者)の家族への支援と対応	
8	施設における支援の実践⑤	各施設における多様な専門職との連携・協働	
9	施設における支援の実践⑥	地域社会との連携・協働	
10	職業倫理	保育士の多様な業務と職業倫理について	
11	実習準備①	各実習先の事前調査	
12	実習準備②	実習目標・具体策の設定	
13	実習準備③	実習日誌の書き方	
14	実習準備④	実習前壮行会、巡回教員との打ち合わせ	
15	実習事後指導	実習を終えて、担当教員と面談 今後の自己課題の明確化	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「健康」		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育場面で子どもの発達をどのようにとらえ、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養う。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児期の健康に起案する幅広い知識と個々の発育・発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	領域「健康」のねらいと内容が理解できる。健全な発育、発達を阻害している健康問題を認識、考察し、健康保持の生活についてアプローチしようとする力を養う。	
授業担当者	杉山 有美		
実務家教員	○	保育士として保育所での実務経験を有する	
使用テキスト 参考文献	・「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」 ・その他、随時プリント配布		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	領域「健康」の意味	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育、保育要領のねらいと内容の理解	
2	乳幼児の心身の発育・発達	年齢ごとの発育、発達について学ぶ	
3	乳幼児の心の健康	心の健康、健康と虐待について	
4	基本的生活習慣の形成	基本的生活習慣とは・援助方法・環境構成について学ぶ	
5	子どもの遊びと健康	子どもにとって遊びとは・子どもの健康を守る遊びの大切さについて学ぶ	
6	安全教育と安全管理	乳幼児の事故・実際に起こっている事故・どのような安全対策を行っているのか学ぶ	
7	健康と自然環境	子どもにとって自然環境の大切さ・自然を使った遊びについて学ぶ	
8	保幼小連携とまとめ	保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「環境」		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	こどもは、様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活している。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・創造力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関われるかを中心に、保育現場における具体事例をあげていく。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業終了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）		
取得単位数	1単位	保育内容の「環境」のねらいと内容を理解する。こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。	
授業担当者	田中美幸		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・「新こどもと環境」理論編 小田豊著 ・「新こどもと環境」実技・実践編 小田豊編 ・「子ども環境から考える保育内容」大橋貴美子・三宅茂夫編 ・「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説書」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	「環境」とは	環境という言葉、環境の定義・環境を通して行う保育の意味について学ぶ	
2	領域「環境」に位置付け	ねらいと内容・指導上の留意点と指導計画・評価の考え方について学ぶ	
3	身近な環境の構成（指導案の構成と作成）	指導案の作成による人的環境、物的環境の理解・自然環境、社会文化環境を学び理解する	
4	保育における環境の重要性と小学校との連続性	好奇心、探求心・思考力の芽生えについて学ぶ	
5	保育環境のデザイン	視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解・指導案の作成を行う	
6	保育者の3つの役割	①環境要素の一つ ②保育実践から見えるコーディネーター的役割③子ども同士の関わり合いから考える保育構想	
7	さまざまな環境との出会い	標識、文字との出会い・数量と図形、ものの性質との出会いについて学ぶ	
8	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題	指導案作成における3間（時間・空間・仲間）の重要性と表示方法指導と小学校との連携理解について学ぶ	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「音楽表現」		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。	
授業回数	5回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	2単位(3年間)	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。	
授業担当者	小関 宏美		
実務家教員	○	高等学校音楽教諭及び非常勤講師として芸術科音楽の指導経験、カルチャースクール講師として童謡唱歌講座の指導経験	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法	
2	「わらべうた」や「伝承遊び」などにおける実践	「わらべうた」や「伝承遊び」などに親しむための指導法	
3	領域「表現」と他の領域との関わりの理解と応用	他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	
4	楽器による表現活動の理解の実践	乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏に親しむための指導法	
5	指導案の作成のポイントと模擬授業の進め方	模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「造形表現」		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	絵の表現の発達の流れを理解した上で、保育や絵の指導にあたることはとても大切である。また、絵の表現の発達の道筋は、個人差があり流動的に考えるようにする。保育者として、絵や造形表現の指導や援助をどのようにしていきたいか考えながら学ぶ。	
学年	2年		
コース	－		
開講時期	後期	造形表現の「ねらい」と「内容」を踏まえ、現場を具体的にイメージし、指導法を考えていく。	
授業回数	8回		
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業外学修	予習：授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。（各回2時間程度の学習） 復習：授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。（各回2時間程度の学習）		
取得単位数	1単位	幼児の感性、興味を見出し、豊かで安定した子どもを育てる指導者としての自覚を持ち、具体的かつ効果的な指導法を身につける。	
授業担当者	山本宗平		
実務家教員	○	子ども向けの絵画教室講師経験	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス及び造形表現の意義について	幼児の造形表現の意義と内容について学ぶ。	
2	子どもの絵の発達と道筋について	子どもの絵の発達と基本について学ぶ。	
3	造形活動の支援・環境づくりについて	表現活動における環境構成及び用具・材料の種類及び指導・援助の方法について学ぶ。	
4	『絵をかく』について	絵をかく喜び及び絵の指導や支援のポイントについて学ぶ。	
5	『つくって遊ぶ』について	手の活動の発達と指導のポイント及びつくる活動の指導のポイントについて学ぶ。	
6	『造形あそび』について	造形あそびの種類と内容及び造形あそびの実際について学ぶ。	
7	道具・用具及び材料の指導について	ハサミ、ステープラ、その他、危険が伴う用具類の指導及び指導法について学ぶ。	
8	試験	試験	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもの指導法「言語表現」		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習:授業の中で予習課題を出題。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べる等で予習する。(各回2時間程度の学習) 復習:授業の中で配布するプリント等を用いて、その日の授業の内容を整理して記述する。(各回2時間程度の学習)		
取得単位数	1単位	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○	幼稚園教諭として幼稚園での実務経験あり	
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	こどもの言語表現指導法と指導案の作成	・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成	
2	児童文化財による乳幼児の言語表現活動	・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法	
3	言語表現が豊かになる児童文化財の指導	・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点	
4	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1)	・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法	
5	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2)	・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り	
6	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3)	・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点	
7	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4)	・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 ・わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り	
8	年間指導計画	年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	こどもと音楽Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・ピアノ技術や表現の獲得を目標とする。	
学年	2年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	基本的なピアノ奏法の取得を目指し、グレード試験を実施する。確実にピアノ技術を身につけていけるよう、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業外学修	予習: 毎回授業の中で、進捗状況を確認。各自の課題曲を練習をする。 復習: 毎回次回までの課題曲を提示する。授業までに弾けるように練習する。		
取得単位数	2単位	グレード試験を2回実施し、より上級を目指す。 9級取得を目指す。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	「バイエル」・「ブルグミュラー」・「チェルニー30番」・「ソナチネ」 全音楽出版社		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ピアノ実践	○グレード試験 10級 バイエル: 30～ 60番 9級 バイエル: 61～100番 8級 バイエル: 90～104番 7級 ブルグミュラー: 1～14番 6級 ブルグミュラー: 15～20番 5級 ブルグミュラー: 21～25番 4級 ソナチネ: 4番、7番、8番、9番 3級 ソナチネ: 1番、6番、10番、12番 2級 ソナチネ: 2番、3番、5番、11番 1級 ソナチネ: 13番、14番 ○一人ひとりの進捗状況を確認する。 ○採点基準 10級: 50点 9級: 60点 8級: 65点 7級: 70点 06級: 75点 5級～1級: 80点 完成度: 10点 授業態度: 10点 ○グレード試験は、当日弾く曲を伝え実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			